

141
122
1

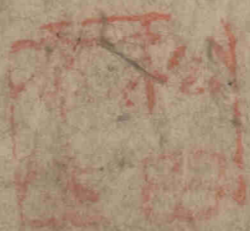
貞父先生答考

白

貞文自筆

貞文先生答考

就



天竺山志

天竺山志
卷之二

天竺山志

伊勢平藏平貞文字幹夫
號安齋住白銀郷



伊勢平藏平上貞文字軒夫
御安齋任白銀郷



奉訊問



○吳 ^ゴ 是國の名昔一吳子と
シ 呉れといししと物なく

しを分るしつる美と物と
む一吳ふらう後一ものけ
まば吳續吳終吳竹一吳其藍
どし英ていしし物と

右為田の情が説く

上野縣景云為田の情ハ町邊の人
と蹴鞠ハおち并做る中と日本
の古史と垂しきとあつ衛志

どうんくつし

上野縣景云吳ハ西の名和名ハ一
と思一大日即ち行しる名なり也
漢土ハ和名なり一 然とちら
と分るる夜ハ母の名なれとしか
と云て夜錦夜績夜紅藍夜衣
と云をそと美と物と物と物と
徹工ととととと物と支那の
物産目録の物とよき物と美と
云々云々

右と如し追考す身希く右上野
縣景依訊問す

天の三聖神の六月 常政

身同

一其扇と申すものよりしる向付
堂上居し衣更人の時羽はあや
ゆきも段をいせ一人存すしお所
をいりもレノ扇はあらじ地を
たうさ赤色にりけり

ちりしと申すもしるあや
うし

天の三夜即ち

なび

暮

吳山とくしと云より古何のゆ
りて稱せしマ様を好す
彩屏をしら夫といふハニシ
候へる懸懸をココといふも
海とくたらといふもあ
い様をいへ 漢土の人ヤニトを
倭と稱せし 歌をいへ

一吳後、吳の徳を考へて
蜀得て、よくそあつた
地、又吳所、吳が盛ん
吳の、産子あつた、長星也
う、あつた、呉を以て移り、
一、し、き、く、南、京、め、ぢ、
殿、あ、つ、つ、あ、さ、ぐ、南、京
す、い、き、あ、つ、つ、あ、さ、ぐ、
地、い、ち、あ、つ、つ、あ、さ、ぐ、
う、い、ち、あ、つ、つ、あ、さ、ぐ、
あ、つ、つ、あ、さ、ぐ、

一、夏、后、と、り、あ、つ、つ、あ、さ、ぐ、
あ、つ、つ、あ、さ、ぐ、
あ、つ、つ、あ、さ、ぐ、
あ、つ、つ、あ、さ、ぐ、
あ、つ、つ、あ、さ、ぐ、

あ、つ、つ、あ、さ、ぐ、

假冒名偽貨難欺廣見

作玉是非一辨真假立分本

意筆名多種四方雲集竟利器

務奔與穎毫免臨湖北近因棍徒

日在公署經獲假筆闔館週知各

竟無實悞遠非輕貽害不淺合亟

倘蒙睿鑒將來玉石不致混淆庶

之聲名不壞矣



堂將瑞元者鋪儀記謹白



竊聞製法精工自招往來

尊商魚目雖可混珠頑石

鋪蔣瑞元店開南街堂號

只在閩南帖鑄金標萬里

許冒倣式私通現六月十

商共覩誠恐名遺虛竊效

佈聞嗣後魚珠真當甄別

許冒之伎倆莫施而本堂

福省南街花巷口得意

長思錄ニ載タル白川神祇伯ノ家ニ傳タルト
云葬送ノ圖ノ評左ノ如シ

此葬送式何ノ時代式ナルヤ時代疑ハシ

一 歩行者ノ冠服疑ハシ何時代ハ服ソヤ末ノ方ニ
尸者ト題シテ四手駕籠ノ如キ物ニ乘リタル人ノ
裝束ヲ見レハ衣冠ト見ユ冠モ袍襟子モ鳥羽院
以來ノ衣文裝束ノ躰也古風ニ非ス此人衣冠ナラ
外ノ歩行者者モ束帶カ衣冠ニテアルベキニ尤ナ
クテアヤシキ物ヲキタリ 服貴賤ノ
差別ナシ

一 小鉦大鉦ノ名ハ有テ圖ナシ形ノ知サル故画ガルトル

一 四竿ノ幡シレクニ書ク文アル中ニ一竿ニハ一生ノ行狀ヲ
書由見テ是ハ今世江戸引廻シノ罪人ニ紙旗ニ
罪科ヲ書付テ持スルニ同シ

一 數人ノ哭女小袖ヲ着タリカツギノ袖ヲ見レハ是モ
小袖也古小袖ヲ上ニアテハシ着ル支ナシ

一 此圖ハホニ引タル神代卷ノ文ニ依テ造タルナリ
持頭キガリモチハ頭者知レ又歟ニテ圖ニ見エズ

一 看ニ卍ヲ書タルハ佛メキタリ

一 方相氏ヲ画タルハ喪葬令ヲモ少交タル歟

右ノ圖杜撰偽作也

貞丈云

不三不之律大津

冠 卷纓 老惣

袍 ケウテキ 襖 前後ノスツ 色紫 指衣ノ如シ

表袴 白フセンリヤノ文 襪 シタツグ

平緒

平胡 三キエ又ハラテンヲト同シカルシ 矢盛 常ノ如シ マフタキアリ

弓 蒔絵又ハラテン ハズハ銀ヌリツル

大臣ノ大將ナラバ邊ヘレ

貞丈

ア一甚

京都ノ女用之由縫時ニ折メラ付ルニハア一タイノ丸
キ頭一針ニテ縮ヲトチテ折ラ付ル又クケ物スルニ
モ右ノ如シ

ア一タイト云名ハ近世賤キ者ノ各付レシヤ賤
人ハ童女ノ事ヲア一ト呼ブ也縫物ノ折ラ付ルニ
モクケモノスルニモ童女ナトニ持セテ置ク此
器アレバツノ手ツダヘ入テ又エヘニア一ノ代ト
云ヌナラシク

貞丈考

冠
卷
續
志
其
七
葉



20
K9

